


# 観天望気

海の気象に関することわざ(言い伝え) [pdf形式](#)

**お願い** : 天気に関することわざの情報ありましたらこの  メールにて提供お願いいたします。  
新しい情報であれば、この観天望気に追加させていただきます。

また、問い合わせは [こちらの !\[\]\(c3d993ca47bfe2a953c700506ce31fa0\_img.jpg\) メール](#) でお願います。

[瀬戸内海全般](#) [讃岐地方\(香川県\)](#) [松山地方\(愛媛県\)](#) [岩国地方\(山口県東部\)](#) [南予地方\(愛媛県南部\)](#)

## 全国共通のことわざ

### 好天に関することわざ

春に南風は3日降らず。  
春の北風は晴れ。  
春の霞は晴れ。  
夏の南風は晴れ。  
夏は南が明るいとき晴れ。  
夏の入道雲は晴れ。  
秋は西が明るいとき晴れ。  
秋の夜の北風は晴れ。  
冬、西か北西の風の時は、太平洋側は晴れ。  
南風は北に変わると晴れ。  
煙が垂直に立ち上れば晴れ。  
煙、西になびくと雨、東になびけば晴れ。  
大風の明日はよい天気。  
雲が西(北)へいくと雨、東(南)へいけば天気は良くなる。  
空に雲一つない夜なら、明日はよい天気。  
雲が沖から静かに上がればよい天気。  
雨のとき、トンビが飛ぶのは、晴れの兆し。  
朝、クモの巣に水滴がかかっているのは晴れ。  
クモが巣を張れば雨が降らない。  
雨が降った後に虹がでると翌日晴れ。  
朝くもりは晴れ。  
朝雨に傘いらず。  
朝、遠くの山がくっきり見えれば、その日は晴れ。  
霧の深い朝は晴れ。  
朝霧が漂っていたら、その日は晴れ。  
夕焼けの翌日は晴れる。  
夕虹は晴れる。  
霜柱の立ちたる日は天気良し。  
秋雨は涼しくなれば晴れる。  
猫は顔を洗うと天気になる。

### 雨、風などの天候のことわざ

春の東風は雨。  
秋の東風は雨。  
東風は地降りの雨。  
北風が南に変わると雨。  
夜の稲妻は雨招く。  
夜なる雷は長雨。  
遠くの音が良く聞こえれば雨。  
鐘の音が良く聞こえるときは、雨の兆し。  
太陽の回りに、光環の現れるのは雨の兆し。  
水面に魚の飛び上がるは、雨の兆し。  
ツバメが低く飛ぶと雨が近い。  
雨ガエルが鳴くと雨。  
朝の雷は大雨。  
朝日の出ずるとき、その色青く見ゆるは大風雨の兆し。  
朝虹は雨。  
朝焼けは雨。  
3日続いて霜降れば必ず雨。  
日本晴れ3日続けば、3日以内に雨となる。  
山近く見えれば雨。  
蚊ばしらが立つと雨。  
島寄せすれば雨が降る。  
羽アリが多く出れば雨が近い。

羊雲やうろこ雲がでると翌日雨  
山に笠雲がかかれば風雨の兆し。

大うねりは暴風雨襲来の兆し。  
海水濁りて潮流急なれば、近日暴風あり。  
秋雨蒸し暑ければ大風  
星がしきりにまたたくと強風になる。  
青い夕焼けは大風となる。  
日の入りに雲の色青く見えて、雲多く重なれば暴風の兆し。  
日没時、一天黄色く見えるときは大風  
吹きだした暖風は暴風の兆し。  
白雲糸引けば暴風。  
風無きに雲行き急なるは大風の兆し。  
雲の雲違いは暴風雨。  
山に黒雲かかれば暴風雨。  
秋の台風は韋駄天で、風が強い。  
丑虎(北東)は風の吹き出し。  
星のまたたきが特に強いときは、遠からず風が出て寒くなる。  
冬、日本近海で無線の空電の多い日は、突風のおそれがある。  
レンズ雲が見えたら風が強くなる。  
高い雲と低い雲が逆方向に流れると風や雨。  
うろこ雲が出たら、三日のうちに雨または風。

## その他、天候変化のことわざ

夏の雨は馬の背を分ける。  
海陸風の乱れは天気のおずれ。  
日量、月量は天候悪化の兆し。  
月が赤いと天気が変わる。  
朝焼けは天気下り坂。  
日にかかったかさの中に1つの星があれば1日、2つの星があれば2日のうちに天気が変わる。  
日や月に、かさがかかると天気おずれる。  
初夏に空が紺碧に晴れた翌朝は霧がかかる。  
東の風は天気下り坂。  
秋の西風は3日は吹かない。  
冬、海面が油を流したごとき日あれば、近く海荒れあり。  
沖が高鳴りするときは、海荒れあり。  
かなとこ雲は恐ろしい。  
東の雷、雨降らず。  
西風は日暮れまで。  
西が海鳴りすると、天気は悪くなる。

## 瀬戸内海のことわざ

### 好天に関することわざ

秋の夕焼け鎌をとげ(晴天になるから稲刈の用意の意味)。  
備讃のもやのハツ晴れ。(午前十時頃には晴れる意味) < 備讃瀬戸付近 >

### 雨、風などの天候のことわざ

秋ヤマデ人を喰う。(秋期のヤマデは天候が急激に悪化して、遭難の危険がある。)  
夫婦喧嘩と北風は宵のくち  
朝の虹は風のもと。  
西北にわか雨が絶えないで吹く西の風は凧が遅い。 < 愛媛県 >  
南に雲が出ると西の風は凧。 < 同 >  
南に雲が無くなると西の風になる、また凧が遅い。 < 同 >  
西方面(戒山の直上)に黒雲があるときは時化が長い。(冬) < 宇和島 >  
雨足が早いときは大風のおそれあり。  
田舎の親爺とマジの風はてぶらでこぬ。(雨をもってくる)  
来そうで来ぬのは戌亥(イヌイすなわちNW)の夕立。  
秋の朝焼けその日の雨。  
春の夕焼け蓑を出せ(雨天になる意味)。  
5月夕焼け水桶。  
つゆの西は水桶(つゆには西風で雨が降る意味)。  
マジ雲(南西より北東に流れる雲)は必ず雨。  
南方に台風があると四国山脈に夕立がくる。 < 備讃瀬戸付近 >  
西風に雨は梅雨どきだけ。 < 同 >  
秋の朝焼けその日の雨。

## その他、天候変化のことわざ

大霧は天候変化の兆し。

春の西風二日晴れ、冬の西風すぐ晴れる。(西風になっても春の雨は二日後でなければ晴れない、冬はすぐ晴れる。)

秋の北風と姑は出が荒い。(最初の吹出しは強いがすぐ弱くなる。陸上で2マイルくらい、讃岐富士までは達しない。)

## 讃岐地方のことわざ

### 好天に関することわざ

阿波太郎(入道雲)が南に立てば天気が続く。

朝曇りの昼カンパチ。<庵治地方>(雲が消えて良い天気になる。)

夏の入道雲は晴。(にわか雨になるところもある)

雲が南西から北東にのびているとき晴。

朝もやの昼日和り。

朝曇りの洋かん晴。<詫間地方>

(海陸風は、一日二回休む。これが朝風、夕風で特に瀬戸の夕風は有名。朝風の時刻には海面からの水蒸気が朝もやとなつてたなびくのである。)

備讃のもやの四ツ晴れ。<詫間地方>

(十時頃には晴れる。)

二月コチ<東風>は日和りなり。

梅のコチ<東風>は晴にまわる。

旋風が山に登れば晴。

土用東風、彼岸東風ともに晴。

(土用の頃の東風は海風で天気が良い。但し東讃地区。)

小高見山に虹が立てば二十日の晴。

小豆島の周りにモヤがあれば翌日も天気。<池田地方>

猫が走り回ると日和になる。

雀が水浴びすれば晴れ。<坂出地方>

ニワトリの高い所に登りて朝を告ぐるは晴れ。

フクロウが鳴いたら天気。<坂出地方>

夕方赤トンボが沢山飛べば明日は晴れ。

アカ切れヒビが痛むと翌日は晴れ。

障子の紙がピンと張ると天気。

遠くの山が良く見えたときは好天。(遠くの山がはっきり見えるときは空気中の水蒸気量が少なく空気が透明であり、又風が強いのである。一般に勢力の強い高気圧に覆われているときに多い。)

半夏のはげ上り。(半夏(夏至から十一日目に当る日)の日が晴れると後は晴天が続く。)

早朝のにわか雨は必ず晴れる。

八専のうし降り。(暦で壬子<みずのえね>の日から癸亥<みずのと<い>)の日までの十二日間、その中の丑、辰、午、戌を除きそのあまりの八日をいい、一年に六回あるが、その間、降雨が多い。)

霜がふくると雨。

朝露が二、三日続くと雨。

春大いに寒く、夏蒸し暑く、秋にわか涼しく、冬暖かなるは皆雨なり。

山が近く見ゆれば雨近し。(低気圧がくる前の曇り空のとき、遠景がはっきりと良く見えることがある。対流が起きないのでほこりがたたないからである。また放射冷却が弱く霧が発生しにくいともある。)

庭石が湿ると雨になる。<多度津地方>

煙が這うと雨が近い。

夕立は馬の背を越さず。<詫間地方>(北西の方からくる夕立ちである。入浜塩田当時夏の採かん最盛期に、片や採かん隣りは浜起こしと哀歓を分けるのが夕立ちであった。)

冬とらまる山が雨で見えなくなると西の突風が吹く。<引田地方>

沖の暗いのは雨となる。沖の赤いのは風となる。<観音寺地方>

小便溜が良く匂うと雨が近い。<王越地方>(汚水に溶けているガスが気圧が下がり悪天になると空気中に発散するためというがただかでない。)

きそうで来ぬは、乾<いぬい>の夕立。<熱雷(夏季地面の過熱によって生ずる上昇気流が原因となつてできた積乱雲にともなう雷)>

藻が縦に流れるときは雨近し。

夏の夕立好天続く。<土庄地方>

早朝暖いときは雨。

夕鳩鳴いて空を見るな、日和に決まっている。

昼トビが鳴いて空を舞えば日和となる。

雨トンビに日より鷹。

鮒が岸へ寄ると天気。

日の入りに西がすけば天気。

破れ傘は日和傘。(暈の中に星が見えると晴れ。)

## 雨、風などの天候のことわざ

雲が西に飛べば雨、東へ飛べば雨は止む。

鱗雲が出ると雨になる。

春南、夏東、秋北、冬西。(春南、夏東、秋北、冬西に雲があれば雨。)

くらす雲<鱗形の雲>が出たら雨。

東の風で西から波雲が出たら雨。

入道雲は夕立の相。  
竜王山に雲がかかると雨。＜琴平地方＞  
伊予山にアナ雲飛んで早仕舞い。＜詫間地方＞  
(瀬戸内上空の穏やかな晴天時に太平洋から四国山脈に吹きつける風によって山頂で雲が乱れ飛ぶ状態を言い、ヤマジ風の前兆。)  
伊予の平山わた帽子は三日の内に雨。＜詫間地方＞  
(川之江市の背後の山に雲がかかれば雨になる。)  
紫雲出帽子。＜詫間地方＞  
(庄内半島の紫雲出山に雲がかかれば風雨になる。)  
雲が北西から南東にのびているとき雨。  
白雲の速いのは風吹かぬ。＜観音寺地方＞  
入梅に西雲風吹かぬ。＜観音寺地方＞  
梅雨の Kochi 雲いたら雨降らず。＜観音寺地方＞  
(梅雨に東から雲がかかったら雨にはならない。)  
坂手の山に雲がかかると東の風が強くなる。＜土庄地方＞  
東方の雲が北へ流れると雨風が近い。＜志度地方＞  
八栗山に雲がかかると風は止まん。＜庵治地方＞  
星ヶ城<小豆島>)に雲がかかると風止まん。＜庵治地方＞  
(土用の時期に、こういう現象が起きると東の風が強くなる。また台風の時期であれば台風が近づく前兆。)  
四、五月頃に大麻山に雲がかかるとマゼ(南東の風)が吹く。  
冬、与治山に雲がかかれば西が吹く。＜引田地方＞  
冬、坂手の山に雲がかかれば西が吹く。＜引田地方＞  
夏の終りから秋にかけて雲が東から西に流れて竜王山に雲がかかれば大北が吹く。＜引田地方＞  
津田の北山に雲がかかったらタマカゼ<北東の風>が吹く。＜津田地方＞  
夜明け頃雲が北から南へ走るとその夜から三日間北風が吹く。＜津田地方＞  
坂手の山に雲がかかれば雨。＜津田地方＞  
西の雲が飛ぶと風が吹く。＜津田地方＞  
二、八月ジビタキ(北風)は雨。  
北東の風で南東に多くの雲あれば必ず雨。  
寒い北風、冷たい西北、吹いて暖かい西の風。  
東風は雨、西風は晴、冬アナイ(西北風)の八日降り北 Kochi <東の風>雨を呼ぶ。南風のかわせの西風こわい。)  
庵治のおばさん、そばひと風。＜庵治地方＞  
(田植え頃の西風は、必ず雨が降る。)  
田西風というは雨。  
(田西風は田植え頃に吹く西風。)  
田西、秋北、春南いつも東風は常降り。  
(田植え頃の西風、秋取り入れ頃の北風、春の南風は雨、東風は四季をとわず雨が降る。)  
風のない日に露がおかなかつたら雨。  
梅雨の西風は水桶。(雨が多い)  
夏の東風は物がかわかない。  
ヤマジ(南風)返し西風。＜詫間地方＞  
(春一番のことを言っている。南西の風から西に変わった時が最も強い。伊予三島地方の局地風で背後の四国山脈から吹きおろす強風で燧灘が大荒れになるので恐れられている。伊予三島が仁尾から、ほぼ南々西にあたるのでこの方向からの強い風の代名詞としても使用されている。)  
そばえ(にわか雨、夕立)で吹くのが冬の風。＜詫間地方＞  
(低気圧の通過速度は平均毎時40キロであるが、冬期は比較的早く60~70キロ位である。そのため雨もサッと降りサッと止み、あっと思う間に西高東低の冬型気圧配置となり季節風が吹く。)  
満ち潮ヤマジ<南風>は風になる。＜詫間地方＞  
(満ち潮時に南風が吹けば風が強くなる。)  
引き潮ヤマジ(南風)は雨になる。＜詫間地方＞  
(引き潮時に南風が吹けば雨になる。)  
七つマジ(南西の風)は雨になる。＜詫間地方＞  
<春、午後四時頃、南西の風が吹けば雨になる。)  
宵アナジ(北西風)はナギになる。＜詫間地方＞  
<強風が吹いていたが、日没頃西北西の風に変われば風が吹かなくなる。)  
二、八は模様なしに風が吹く。＜詫間地方＞  
(二月八月は風が吹く前兆がなくて、にわか強い風が吹く。)  
宵そばい(日の暮れ間もない頃のにわか雨)なぎになる。＜詫間地方＞  
(強い風が吹いていたのに雨が降ってきたら風が治まる。)  
梅雨の Kochi <東風>は、ただで吹く。＜詫間地方＞  
(梅雨期以外では低気圧が西に接近するために東風が吹き雨を呼ぶが梅雨期の東風は雨になりにくい。)  
下げてのぼすが春のマジ(南西の風)。＜詫間地方＞  
(上空は東風、地上は西の暖かい風で桜の開花を急がす。)  
大北風<秋>のとき後雨。  
二、八とんほ風。  
(二月は突発的な季節風が最も強く、八月には台風がある。だから船旅は、この季節にはさけた方がよい。)  
寒の Kochi は山地風<南西の風>が強い。＜観音寺地方＞  
(寒に東の風が吹けば南西の風が強くなる。又風雨となる。)  
根北<真北の風>うそゆうて西となる。＜観音寺地方＞  
(真北の風は嘘であって西風が強くなる。)  
南の赤いのと姑の高笑い後が怖い。＜観音寺地方＞  
(瀬戸内海上空は雲で塞がっているが太平洋から吹き上げる風で四国山脈の稜線と雲の間に窓があく状態でヤマジ風(南の風)の前兆。)  
冬場の南讃岐路<五剣山>が見渡せば北西の風が強くなる。＜土庄地方＞  
かわせが怖い。＜津田地方>(急に反対から吹く強烈な風は怖い。)  
土用 Kochi <東風>が吹く。＜庵治地方>(土用頃に Kochi <東風>が吹くと台風が近い。)  
土用半ばの北三日。(夏八月初旬頃までは北の風が吹き出せば三日位は続く。)  
秋ヤマゼ<南風>は赤羽牛の角おとし。＜引田地方>(秋<台風の頃>のヤマゼ<南東の風>)は牛の角が落ちるくらい強烈に吹く。)

ヤマゼ<南風>かわせの西吹き。<引田地方>(台風のとときヤマゼ<南風>が西に変わったら強烈に吹く。)  
夜マゼに浜西。<引田地方>(九~十月頃昼間、浜西の風、<陸の方から吹く強い風>は夜になれば北の風になる。)  
春から夏の北ヤマゼ。<引田地方>(この頃北の風が吹けば翌日はマゼ<南東の風>になる。)  
大角まわしのマゼ<南東の風>怖い。<引田地方>(大角<小豆島>からの風が変わってマゼ(南東の風)になれば強く吹く。)  
コチ(東風)に雨はおそえもの。<僅かの雨の意かも知れないが、そうともばかりは言えない。)  
アナジ(北西の風)の八日吹き。  
(十二月頃北西の季節風が最低八日間吹く。)  
寒なき二十日。<国分寺地方>(小寒、大寒の間は、風が吹くことがなく良い天気が続く。)  
寒むや北風、冷たやアナジ(北西の風)、吹いてぬくい(マジ(南西の風)の風。<国分寺地方>(北風は寒く、北西の風は冷たく、南風は吹いても暖かい。)  
梅雨の西本順。<詫間地方>(梅雨の時期は、西風が吹くと雨本番である。)  
梅雨の宵晴れ。<詫間地方>(梅雨の時期の宵の一時が晴れても束の間である。)  
大麻山がしぐれると雨がくる。<池田地方>  
卯の刻雨に傘持つな。<豊浜地方>(卯の刻(午前六時)の雨はすぐ止むから傘は持たなくてもよい。)  
朝の小雨は日和となる。  
讃岐の夕立あと真雨。  
讃岐の夕立三日もの七日そばいで後真雨。  
夜上がり雨は長持ちせぬ。  
半夏のつゆ長。(半夏(夏至から十一日目に当る日)の日が雨なれば梅雨が長い。)  
はこべの花、閉ずるは雨の兆。<宇多津地方>

樹木より汗流れる時は雨近し。  
日、月の量は翌日雨。  
朝焼けはその日は雨。(朝焼けは移動性高気圧が遠ざかっているときにできる。その後低気圧が通るので雨になる。)  
朝焼けがすぐ引くと雨が近い。  
夏の朝焼け雨が降る。<志度地方>  
梅雨の夕焼けは朝までもため。  
梅雨の夕焼けミノ笠備えよ。  
夏の夕焼け水戸おとせ。(水戸是水田の水位を調節するところで、夜にも雨が降るのを予想している。)  
朝虹は雨、夕虹は晴、二重虹は暴風雨。  
朝虹は川を越すな。  
金毘羅山から飯野山にかけて虹が立てば雨。  
○広島虹その日の洪水。<丸亀地方>  
夕焼けの長いのは天気。  
虹が山に落ちたら晴、海に落ちたら雨。  
朝東が焼けると風になる。  
星がしげくまばたくと風が強くなる。<庵治地方>  
春の朝焼け蓑着て待て。<詫間地方>  
月の出入りに風を呼ぶ。(秋)<観音寺地方>  
月の上りに日の下り雨じゃござらぬ火でござる。(月の昇り、日の下り頃の雨は日照りのしるし。)  
冬の下沖(南西)光れば暴風雨。<観音寺地方>  
寒霞溪に虹がかかれば小豆島の裏(北側)は雨。<内海地方>  
秋の夕焼けは北風になる。<土庄地方>

北西に虹が立てば洪水の兆。  
朝日に向っての虹は洪水。<庵治地方>(以後大雨が降る。)  
アラジモトが光ると風が吹く。<庵治地方>  
戌亥の方向(西北西)が光ると大風が吹く。  
朝焼けが濃く短時間(二、三分)のときは台風が直撃する。<庵治地方>  
台風の時期にこのような現象がおきることがある。)  
川音が高く人声が近いと雨。<音の速さは暖かい空気の方が冷たい空気より速い。晴れた日の空気の温度は地上に近いほど暖かく、上に昇るほど冷たくなっており、音を出すと音はまっすぐ飛ばないで冷たい温度の方へ曲がって逃げる。曇りの日のように地上付近と上空の温度差が少ないときは上空に逃げず遠くまで届きやすい。)  
朝雷に隣りへ行くな大雨が降る。  
ゴロゴロと一つ雷、風起こし。  
猫が耳の上まで手をあげて顔を洗うと雨が降る。(空気が湿っていると猫の毛がのび顔の筋肉に刺激を与えるので顔を洗うといわれる。)  
猫が仰向けに寝れば雨近し。

猫が道端に糞をすると雨。  
猫が糞に土をかぶせると晴れ、土をかぶせないと天気かぐずれる。  
朝キジが鳴いたら雨になる。<坂出地方>  
カモメの高飛び風になる。<詫間地方>  
ハトが鳴けば雨になる。<詫間地方>  
朝トビがしょんぼり止まって鳴いたら雨。  
トビに遠歩きするな。<坂手地方>(朝トビが舞うときは、低気圧が近づいたときで雨が近い。傘を持たないで遠くの方へ行かないようにするがよい。)  
トビが高く飛ぶのは風。<坂出地方>  
雀が庭で餌をあさるときは雨。  
ツバメが下を飛ぶと雨で上を飛ぶと晴れ。<坂出地方>  
朝モズが鳴くと風が止む。  
カラスが早く巣に帰るのは雨。<坂出地方>

夕方遅くまで鳥が餌を探すのは雨。  
トンボ家に入れば雨。

赤トンボが沢山飛べば後は風。  
蟻が穴をふさぐと雨が近い。

蟻が行水すると雨が降る。  
蟻が行列すれば雨が降る。  
蟻が集合するは雨の兆。  
小バエが沢山下を飛ぶと雨。 < 坂出地方 >  
ブヨが飛ぶと雨。 < 坂出地方 >  
蚊空に集まるは雨。  
クモが下の方へ巣を作ると雨が降る。  
蜂が木の下の方へ巣を作るは雨が降る。  
蜂が地面近くに巣をしたら大雨。  
ムカデが家の中に入ると雨が降る。  
ムカデが沢山でると雨が降る。  
ムカデの草ばいは雨近し。  
蛇が木に登れば雨。 < 坂出地方 >  
カニが床の上に昇れば雨の前兆。  
カニが流しの上に登ると雨近し。  
カニが木に登れば雨。(夏)  
カニが塀に登れば雨。  
舟虫が陸に上ると暴風の兆。  
鯉があばれたら雨。  
池、沼の魚が水面に浮遊するは雨の兆。 < 坂出地方 > (気圧が下がるため水中の酸素が欠乏するので魚が水面に浮くのであろう。)  
川魚が良く釣れるのは雨。 < 坂出地方 >  
砂が浮けば雨。 < 志度地方 > (潮が引いた後、砂浜に盛り上がったような形が多くできると雨になる。)  
早朝暖かく感じたら雨。(春や秋は天気が変わりやすいが、低気圧が近づいてくると空に雲が広がり大地から暖められた熱が空中に逃げ去るのを弱める。放熱を弱めることにより暖かさを感じる。)  
夕方、播州路が良く見えると北風が吹く。 < 三本松地方 >  
南の空が黄色となると暴風雨。

## その他、天候変化のことわざ

南の雲は嘘をいう。 < 詫間地方 > (上空が北東の風で南に雲が飛ぶと地上風は南西の風となり燧灘が荒れるが時には地上風が吹かずたまされ漁師は馬鹿休みさせられる。)  
瘦せ舟方に月の表の雲見せな。 < 詫間地方 >  
(月に速い雲を見たら強い風が吹くから出漁しない。)  
坂手湾の朝霧は日中暖かい。 < 坂手地方 >  
坂手湾の朝モヤは播磨灘にもモヤがある。 < 坂手地方 >  
春の西風は晴、東風(コチ)は雨。  
春南風が吹くと曇りか雨、北風は晴。  
夏の南風、池底割れる。 < 詫間地方 >  
秋は朝北風が吹き、昼は南風が吹くときは天気が続く。  
朝コチ(東風)夕凧夜マジ(西風)池底割る。 < 詫間地方 >  
(海陸風の吹く状態で朝方に東風が吹き夕方に西風が吹けば、夏には雨が降らずに池が干上るほどの晴天続きとなる。)  
夏西雨の子、春風あした吹き。 < 観音寺地方 >  
(春の風は予想より遅くなる。)  
男木島からの大風の後は天気になる。 < 土庄地方 >  
十月たか風借錢払い。 < 詫間地方 >  
(この十月は旧暦のことで、この時期は安心して漁のできる日が多い。)  
春の西風二日晴れ、冬の西風すぐ晴れる。(西風になっても春の雨は二日後でなければ晴れない。冬はすぐ晴れる。)  
秋の北風東へまわればくずれて雨、西へまわれば晴。  
コチ(東風)が吹けば、ウツボも喰わん。 < 志度地方 > (東の風が吹いて海が荒れると海底の潮も動き漁がない。)  
入梅の東晴れ、入梅の東雨なし。 < 観音寺地方 >  
梅雨の上沖(北西)晴れは雨となる。 < 観音寺地方 > (梅雨に北西沖が晴れていると雨が近い。)  
播磨の雨、小豆島の晴。(兵庫県赤穂の方が雨でも小豆島は心配しなくても晴れである。)  
ひより草が青い時は雨、白くなると晴れ。  
五月十日に降る雨は、雨でござらん火でござる。 < 引田地方 > (五月十日に少しの雨が降っても、その年の夏は干ばつが襲うという意味。)  
南の明るいのと姑の高笑い後が怖い。

月に雨傘、日に日傘。  
秋の夕焼け鎌を研げ、夏の夕焼け蓑笠備えよ。(秋の収穫期に夕焼けになると明日も良い日和となるので野良仕事ができる。夏の夕焼けは雨が降るので雨具を用意せよ。)  
晩虹は二十日の日照り。  
夕立に向かう虹は千日照り。  
北の空がすくと日和、北の空が焼けたら雨。  
春の夕焼け傘を持って、秋の夕焼け鎌を研げ。(春の季節に夕焼けになると近いうちに雨、秋の季節に夕焼けになると明日は好天で仕事ができる。)  
月夜は暴風なし。 < 詫間地方 >  
出月に雨なし。 < 豊浜地方 >  
秋の夕焼け鎌研いで待て。 < 詫間地方 >  
夕立に向っての虹は二十日の日照り。 < 庵治地方 >  
太陽が二つ出ると天気がくずれる。 < 志度地方 > (乱れた雲間<二、三個所)から光がもれると天気がくずれる前兆。)  
朝焼けが薄く短時間のときは台風がさける。 < 庵治地方 >  
一つドンドロ後こわい。  
雷鳴ったら梅雨きめる。 < 観音寺地方 >  
比地の雷音ばかり。 < 詫間地方 > (仁尾は地形的に夕立が降りにくい。これは阿讃<讃岐)山脈から張り出す夕立雲は比地(豊中町)あたりまでで距離的に近いので雷鳴は高いが夕立は仁尾には降らない。)  
一つ雷用心せよ。 < 坂手地方 >

梅雨の雷、終りの合図。< 詫間地方 > (雷は入道雲の発生を表し、梅雨明けの近いことをいう。)  
トビの朝鳴きは雨、昼鳴きは日和。  
鳥の帰りの早い日は日和、遅いは雨。  
ナマズが石垣に入ったら地震。  
秋だたいの春干床。< 坂手地方 > (秋の満潮のとき、春の干潮のとき降り出した雨はなかなか止まない。)  
秋は三合満ち春は干床。< 坂手地方 > (秋は三割満ち、春は干潮時に雨が降る。)  
霜の日が三日続けば日和が変わる。  
鍋尻に火がつくと日和が変わる。

気温の急変天気の流れ。  
櫛の通りにくい日は天気が崩れる。  
八十八夜の別れ霜。< 詫間地方 >  
二八かわい子、舟に乗らすな。< 観音寺地方 > (旧暦二、八月の天気の急変を戒めたもの。)  
今日は、そこびえするから明日は雲。  
朝テッカーリは当てにはならぬ。  
煙草の湿れるは未だ晴れの見込みなし

## 松山地方のこわざ

### 好天に関するこわざ

梅南の南風は晴れ、北風は雨。< 速吸瀬戸付近 >

### 雨、風などの天候のこわざ

男泣かせの北風、女泣かせの南風。(北風が強いとき興居島の沖合は海化しているが、三津浜は凧いでいるから、女房は主人に出漁を迫り男は泣かされる。南風が強いときは三津浜が海化で女房は主人に出漁してもらえないから泣くが、沖合は静かである。)

港山に雲が出たら風(松山港北方の山)。  
高縄山(波妻鼻の南東5マイルの高峰)に雲が出たら北風が強くなる。  
北踏(キタジ)の夕立国づくし(北方から襲来する夕立は全面的な雨になる)。  
西の夕立怖くはないが北の夕立はハヤテになる。< 速吸瀬戸付近 >  
夏の南風は山肩で強い、冬の北風は海面で強い。< 速吸瀬戸付近 >  
早やマジ天気(六月に吹く南風)は夜になりや凧ぐ。おくれマジ天気(七月に吹く南風)は雨になる。< 速吸瀬戸付近 >

冬のヤマジ(南風)は風のもと(翌日大風になる)。< 速吸瀬戸付近 >

### その他、天候変化のこわざ

朝の地あらし天気が変わる。  
冬の西風は三崎半島の雲がとれなければ凧がない。

## 岩国地方のこわざ

### 好天に関するこわざ

朝の薄雲り大日の元  
秋の西風鎌を磨いで待て。  
秋の北風春の南風は日和  
秋の夕焼け鎌を磨いて待て。(晴天となる)

### 雨、風などの天候のこわざ

うろこ雲が出たら3日以内に雨となる。  
天に雲がなければ3日以内に雨になる。  
北晴れは、3日がもてん雨となる。  
伊予地の雲が厚いと雨近し。  
柱島へ雲がかかると雨が近い。  
南のつかえ(暗雲)は明日も季節風強し。  
風無く雲行き急な日は大風の兆  
朝雲が紅色なれば雨  
西空に黒雲雨となる。  
北方が真黒に曇ると雨になる。  
月に笠は雨近し。  
日暈、月暈、雨近し。  
巻層雲は風の兆(天気の下り坂)  
波雲は翌日は雨  
雨降ろうとして西から曇る。  
夜あがり雨は続かず昼からの雨は止まぬ。  
夕立雨の三日降り。  
高低の雲の動き異なるときは雨  
星のきらめき強風の兆

ヤマジ(南東の風)返しの西こわい(西風が強く吹く)  
北東の風の後は雨となる。  
冬のヤマジ(南東の風)西風になる。  
寒東風吹けば定の雨  
吹きだれは雨  
春一番は鹿の角をかく。  
冬の西風雨が降る。

アナジ(北西風)のさえ吹きは北<北西風がそよそよ吹く様になるとその内に北風が強く吹く。)  
島、山近く見えれば雨が降る。  
春の夕焼けミノを持って。(雨となる)  
西の夕焼け晴れとなり東の夕焼け雨となる。  
朝虹は雨、夕虹は晴れの前兆  
星のきらめきは大風  
鐘の音が良く聞こえる時は雨の前兆  
夜の稲妻は雨近し。  
あかつき星のきらきら光るは雨の兆  
蜂の巣が低い年は大風が吹く。  
浜虫<舟虫>が陸にあがると大風になる。  
猫が毛をなめると雨が降る。  
雨ガエルが夕方鳴くと雨  
ぶと<ブヨ>が身近に寄りつくと雨が近い。  
蟻の行列を見れば雨近し。  
坊主と風は四つ立ち。(午前、午後10時頃忙しくなり風が強くなる。)  
蒸し暑い日の翌日は雨

## その他、天候変化のことわざ

朝曇りは姑の笑顔  
積雲が出ると天気が良くなる兆  
雲を見て船を出せ。  
雲を見て港を出せ。  
彼岸日より可愛い子に旅さすな。  
田西秋北(田植頃の西風と稲刈頃の北風は晴れる。)  
月が赤いと天気が変わる。  
一つどろん<雷>に港を定めよ。(時化て来る)  
二、八月の風強し。(2月と8月は強い風が吹く)  
星の座りの良さは海路の日和  
朝虹、川を越すな。  
雷が鳴れば梅雨が明ける。  
冬の北風と夫婦げんかは夜になるとなく。  
苗代風の婿いなし。(春先は気象が急変する。)  
夫婦げんかとアナゼ(北西風)は暮れには風ぐ。  
男心と秋の空(天気の変化が早い)  
嵐の前の静けさ。

## 南予地方のことわざ

### 好天に関することわざ

秋に西の底が晴れたら明日は晴天。<近家>  
日没晴ならば翌日は天気なり。<西外海>  
夏のよいやけ(夕焼)いではなせ、秋のよいやけかまを研げ。<夏は大雨、秋は天気が良い。)>  
もやが出ると晴れる。<御荘>  
雨上がりの翌日は晴れ吹き。<吉田>  
嵐の山(東方に見える山)に雲がひとつもなかったら、その日は上天気。<由良半島>  
掛網代から雲がはれたら天気になる。<近家>  
日没快晴なればあすの天気あり。<西外海>  
太鼓の音が鈍いと雨、締めたる時は晴。<中筋>

### 雨、風などの天候のことわざ

朝、西に堤をつく(黒雲がある)と風が強い。<御荘>  
夕日が西に没するとき、夕日の近辺が黒い雲に覆われたときは雨が近い。<磯津>  
東が雲れば風になる。<清満>  
雲が海の方へ行くと雨。(こちに乗る雲)<由良半島>  
沖(西および北西)がつかえ(土手雲のできる)ことたら雨<下波>。  
輪雲が立てば風強し。<東外海>  
冬のヤマジ(南西の風)は西となる。<下波>  
春コチ(東の風)秋北雨やまず。<下波>  
海に砂が浮くと雨。<北灘>  
屋内に煙が回ると雨となる。<南久米>  
夜上がり雨(夜中に雨がやむ)は、また近いうちに雨となる。<三浦>  
もやが出ると雨が降る。<岩松>



だいな(大海原)火があがれば風。<下波>  
一つ雷に川向へいるな大雨と知るべし。<岩松>  
一つ雷は風となる。<近家>  
山が近く見えるときはその日に雨。<岩松・吉田>  
島が近く浮いた様に見える。<下波>  
島寄りがすれば雨。<奥南>  
音が近くに聞こえるときは雨が近い。<吉田>  
星のまたたくときは風、または風雨近し。<中筋>  
たばこが湿ると雨近し。<中筋>

## その他、天候変化のことわざ

東が雲れば晴れていても雨、東が晴れば降っていても晴れる。<畑地>  
深山(鬼ヶ城山)に雲がかかっているうちは荒天が続く、山かすく(雲がなくなる)となぎ<下波>  
コチマジ(南東の風)天気悪い。<津島>  
コチ(東の風)が続くとしけになる。<御荘>  
北風と夫婦げんかは夜になるとなく。<吉田>(注)冬のことわざ  
春のひいとい(一日)吹き。<下波・三浦>(注)風が強いが一日でなく。  
春ヤマジ(南西の風)池の底を乾す。<御荘>  
潮が高いと天気が狂う。<下波>  
潮があたたかくなると大しけになる。<下波>  
暖簾が動くときは舟乗り出すな。<吉田>  
夏のさだて(にわか雨)は馬の背降り分ける。<下波>  
よいの時雨はあけのなぎ。<下波・北灘>